

音楽

「指導者用デジタル教材」を用いた授業展開例

中学校 第2・3学年下 音楽科 学習指導案

北海道札幌市立北辰中学校
教諭 渡辺 景子

題材名 歌舞伎の豊かな表現を鑑賞しよう（3時間）

**題材の
ねらい**

- (1) 歌舞伎「勧進帳」の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解する。
- (2) 歌舞伎「勧進帳」の音色、リズム、旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、歌舞伎「勧進帳」のよさや美しさを味わって聴く。
- (3) 歌舞伎「勧進帳」の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。

**本時の
ねらい**

- 歌舞伎について知り、歌舞伎「勧進帳」のあらすじを理解する。
- 長唄「勧進帳」を聴き、長唄の特徴を理解する。（第1時）

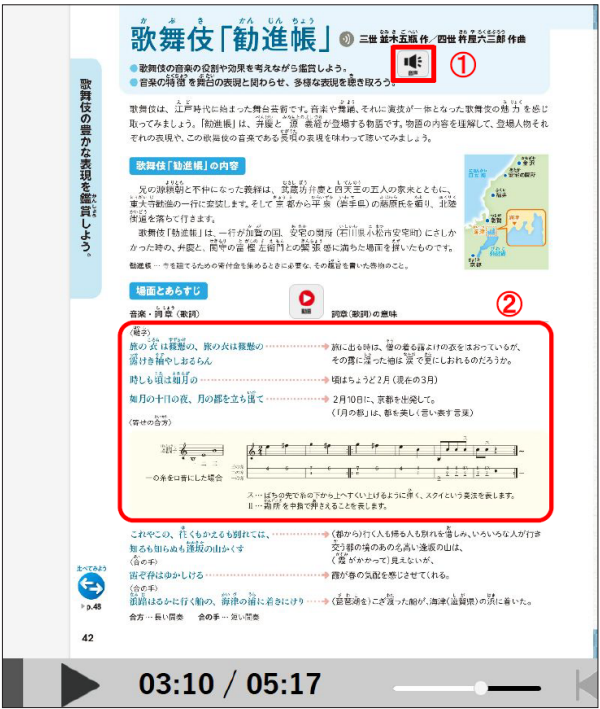
指導時期 12月上旬～12月中旬

指導者用デジタル教材活用の意図・目的

歌舞伎に限らず、オペラや文楽など総合芸術の鑑賞においては、扱う要素の多さゆえに教師による解説が長くなりがちであったり、物語の展開や美術的な要素にのみ注目しがちであったりという問題点があった。必要な部分を取り出して繰り返し視聴できる、拡大・縮小や編集ができるというデジタル教材のよさを生かして、音や音楽を入口として歌舞伎に興味をもち、音や音楽とともにあらすじを理解し、長唄をうたう活動や歌舞伎の視聴に期待感をもたせることをねらって、本時を構成した。

本時（第1時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	● 「指導用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	●歌舞伎と「勧進帳」の概要について知る ●「旅の衣は～寄せの合方」(①音源3分10前後まで)を教科書の詞章を見ながら聴き、印象を交流する。(②) ㉟：歌のところは、ゆっくりで、ヴィブラートのようなものが入っている。歌詞がないと聞き取れない。 ㉟：歌がなくなった楽器だけのところは、意外と疾走感がある。「舞」が入っているのかな。	●[音声] アイコンを押し、歌舞伎「勧進帳」の音源を再生する。(①) 
展開	●歌舞伎の音楽、舞踊、演技、舞台について、教科書p.44-45をもとに知る。 ●歌舞伎「勧進帳」の内容やあらすじを理解する。また、それぞれがどのように演じられているかを想像する。 ㉟：読み上げのところは、なんだか苦しそうだ。 ㉟：詰合いのところは、音楽も盛り上がり緊張感がある。「ドンドン」という音は足音だろうか。 ㉟：飛び穴は歌や三味線がなく囃子だけだったが、どのような動きなのだろうか。	●該当箇所について、拡大したり、マーカーで強調したりする。  ●p.43にある[音声]アイコンを用いて、音楽とともにあらすじを伝える。 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	● 長唄「勸進帳」の動画を視聴する。 ● 声の出し方、節回し、三味線と歌の関わり合い等について、気づいたこと、感じたことをワークシートに書く。 ◎：最初は聴き取りに思ったが、話し言葉のようで、明るい響きだと感じた。 ◎：三味線が歌の合いの手として会話のようになる場面もあれば、主役になる場面もあり、雰囲気を引き立てる役割をしている。	● p.42にある動画を再生する。必要な部分を繰り返しながら、長唄の特徴を理解させる。  ※必要な生徒は、教科書の二次元コードを読み取り、手元で動画を再生する。
まとめ	● ワークシートに書いたことを発表し合う。 ● 再度、長唄「勸進帳」を視聴する。	● 適宜動画の該当箇所を再生するなどし、生徒の気づいたことや考えを共有する。

指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

- ① デジタル教材を活用することで、物語の展開や演劇・美術の要素をそれぞれ独立して捉えるのではなく、音や音楽を入口として、音楽・舞踊・演技とを関連させながら歌舞伎全体を味わうことへとつなげることができる。
- ② 活用の注意として、それぞれの動画や音声は、聴き取らせたいことや感じ取らせたいことなどのねらいに合わせて、どの場面を切り取るかあらかじめ決めておく必要がある。
- ③ 教師による口頭の説明だけでは、教科書を追ったり内容を理解したりするのが難しい、特別な配慮を要する生徒への支援として、教科書の該当箇所を拡大して表示したり、一緒にマーカーを引いたりする手立てが有効だった。簡単にやり直しやリセットができることも、指導者側のメリットである。